



令和7年5月号
かすみ台第三保育園

5月は朝晩は涼しくて、昼間は夏日といわれ、気温が急激に上昇する日が多くなります。しかし、体がまだ暑さに対応できずに熱中症になってしまうことがあります。水分はこまめにとるようにしましょう。

子供の病気とケアのポイント

発熱



子どもの免疫がウイルスや菌とたたかっていることを知らせる大切なサインです。

<観察のポイント>

- ・体温の変化を記録しましょう。
- ・発熱以外の症状がないのか。

<ケアのポイント>

- ・手足が冷たければ、温めましょう。
- ・手足も熱ければ、薄着にしましょう。
- ・氷枕をしたり、大きな血管のある脇の下などを冷やしましょう。
- ・汗をかいたら着替えましょう。
- ・子どもは脱水症になりやすいのでこまめに水分を飲ませましょう。
- ・解熱剤の使用は、かかりつけ医のアドバイスに従いましょう。

咳



喉や気管支の粘膜についたウイルス、細菌や埃などを体の外に出そうとして起こる反応です。

<観察のポイント>

- ・いつどんな咳をしているか。
- ・ゼーゼーいったり、機嫌が悪い時は熱がなくても早めに医療機関を受診しましょう。

<ケアのポイント>

- ・安静にしましょう。
- ・こまめに水分を飲ませましょう。
※0～1歳児で重症化しやすいRSウイルス感染症は、注意しましょう。

下痢



夏には夏風邪、秋から冬にはノロウイルス感染症、春にはロタウイルスによる胃腸炎が流行します。回復後もウイルスは便の中に数週間排泄されるので手洗いをしっかりしましょう。

<観察・ケアポイント>

- ・脱水症状になりやすいので水分を少量ずつこまめに飲ませましょう。
- ・食欲がない場合は、無理に食べさせる必要はありません回復してきたら消化の良い物を少量ずつから開始しましょう。
- ・おむつをしていると、おしづがただれやすいので、微温湯などで洗うなど、清潔にしましょう。

※4月は高熱や、発熱が続くなどの風邪症状やヒトメタニューモウイルス感染症のお子さんが見られました。RSウイルスやヒトメタニューモウイルス、マイコプラズマ肺炎など気管支に影響を及ぼします。休息・うがい・手洗い・消毒などの感染予防をよろしくお願ひいたします。



